

めぐみイエス・キリスト教会

2025年6月29日(日)第五主日礼拝

午前10時より

週報「通算第765号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌136「御霊よ降りて」 p. 192

【交読文】 No.55 ヨハネの福音書15章(抜粋) p. 923

【賛美Ⅱ】 新聖歌385「主よ終りまで」 p. 620

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「聖霊の風」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章43節～45節 (p. 133上段)

【礼拝説教】 《一人の子ども》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章46節～48節)

9:46 さて、弟子たちの間で、だれが一番偉いかという議論が持ち上がった。

9:47 しかし、イエスは彼らの心にある考えを知り、一人の子どもの手を取って、自分のそばに立たせ、

9:48 彼らに言われた。「だれでも、このような子どもを、私の名のゆえに受け入れる人は、私を受け入れるのです。また、だれでも私を受け入れる人は、私を遣わされた方を受け入れるのです。あなたがた皆の中で一番小さい者が、一番偉いのです。」

●ポイント1. マルコの福音書における平行記事から

※マルコの福音書9章33節～37節「カペナウムの家にて」(新約p.87)

9:33 一行はカペナウムに着いた。イエスは家に入ってから、弟子たちにお尋ねになった。「来る途中、何を論じ合っていたのですか。」

9:34 彼らは黙っていた。来る途中、だれが一番偉いか論じ合っていたからである。

9:35 イエスは腰を下ろすと、十二人を呼んで言われた。「誰でも先頭に立ちたいと思う者は、皆の後になり、皆に仕える者になりなさい。」

9:36 それから、イエスは一人の子どもの手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱いて彼らに言われた。

9:37 「だれでも、このような子どもたちの一人を、私の名のゆえに受け入れる人は、私を受け入れるのです。また、だれでも私を受け入れる人は、私ではなく、私を遣わされた方を受け入れるのです。」

●ポイント2. 子どもを祝福された主イエスの別の記事から

※マルコの福音書10章13節～16節「子どものように」 (新約p.87)

10:13 さて、イエスに触れていただこうと、人々が子どもたちを連れて来た。ところが弟子たちは彼らを叱った。

10:14 イエスはそれを見て、憤って弟子たちに言われた。「子どもたちを、私のところに来させなさい。邪魔してはいけません。神の国はこのような者たちのものなのです。」

10:15 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

10:16 そしてイエスは子どもたちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。

●ポイント3. 神様の約束から

※使徒の働き16章31節「ピリピの牢獄において」 (新約p.268)

16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

◎先週のメッセージ【十字架とは？】

《イエスは言われた。「あなたがたは、これらの言葉を自分の耳に入れておきなさい。人の子は、人々の手に渡されようとしています。」

これは、第二回目の受難予告ではなく、ピリポ・カイサリアにおいて、数日前になされた第一回目の受難予告の続きとも言えます。「人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日目によみがえらなければならない。」

そして、「だれでも私について来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、私に従って来なさい。」と語られました。

さて、弟子たちには、この言葉が理解できなかったとあります。また、彼らは、このことを、主イエスに尋ねるのを恐れていたのです。

さて、キリスト教のシンボルは、「十字架」です。十字架とは、ローマ帝国が反逆者に対して考え出した、もっとも残酷な処刑方法です。私たちは、この死刑の道具である「十字架」を掲げています。また、十字架は異端と区別することに対しても、その基準となっています。

「旧統一教会」や、「モルモン教」や、「エホバの証人」は、自分たちをクリスチャンと称しながらも、十字架を完全に否定しています。

さて、主イエスは、ご自身のことを「人の子」とも言われました。「人の子」とは、ダニエル書に登場する「神の子」のことを指しています。

大祭司カヤパは、「私は生ける神によっておまえに命じる。おまえは神の子キリストなのか、答えよ。」と言うと、すぐに主イエスは、「あなたが言ったとおりです。しかし、私はあなたがたに言います。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲と共に来るのを見ることになります。」と、答えられたのです。

この時、主イエスは、ご自身が神の御子であることを公にされたのです。主は真実を語られましたが、この言葉によって、主は死罪となります。私たちの罪の身代わりとして、十字架に掛けられる為に。》

◎お知らせ

※次回第一主日礼拝は、2025年7月6日午前10時より行ないます。